

「おかあさん、おしゃれしてよ！」

ふたご関係の活動（育児支援や文学作品に出てくるふたごの研究）と並ぶ僕の大切な活動に、人権関係のものがああります。1977年にノーベル平和賞を受賞したアムネスティ・インターナショナルという国際人権擁護団体があるのですが、そこでの活動は40年以上にもなります。さて、そのアムネスティ日本支部は、毎年スピーキング・ツアーを企画して、さまざまな人権侵害の被害者の生の声を聞いてきたのですが（たとえば、チベット難民、チェチェン紛争の被害者、ペルーの国家権力による虐殺の遺族など）、以前、元「子ども兵士」だったチャイナ・ケイテツさんの証言を聞く全国スピーキング・ツアーを行いました。僕の属する金沢のグループも彼女の講演会を開きました。そして、100名を越す多くの人が、それも若い人たちが、彼女の声に耳を傾けてくれました。

この講演会の前日に小さなフランス料理屋を借り切って、歓迎パーティーを開いたのですが、その場で初めて彼女に会った僕は大変驚きました。それは、チャイナ・ケイテツさんがとてもおしゃれだったからです。「おしゃれ」という言葉は僕の最も好きな日本語なのですが（その割には、いつもみずばらしい格好をしているって？）、まさにこの言葉がぴったりのチャイナ・ケイテツさんでした。服装だけではなく、身のこなし方や話し方を含めて、彼女の全体がおしゃれな雰囲気をかもしだしていたのです。

チャイナ・ケイテツさんは、ウガンダの方ですが、8歳のときに軍に入れられ、後に上官に性的な関係を強いられて、14歳と18歳のときに子どもを産みました。また、誰でも子どもを撃つことにはためらいがありますから、子ども兵士は逆に非常に「強い」兵士ということになります。そして、子どもは基本的にまじめですから、教えられたとおり、兵士の任務を忠実に果たします。そういった恐ろしい経験の果てに、チャイナ・ケイテツさんは軍からの脱走を決意し、アフリカの5つの国を経て国連に助けられ、ベルギーに難民として受け入れられたのです。

このような悲惨な体験をしたチャイナ・ケイテツさんなのに、それはそれはおしゃれだったのです。そこでわたしたちは、ぶしつけですが、なぜそんなにおしゃれなのか訊いてみました。すると、とても興味深いことを答えてくれました。ベルギーでは、子ども兵士としていわば人間らしい生活を経験できなかった彼女にさまざまなプログラムが用意され、普通の社会で普通に生きていくための訓練がなされたそうです。そして、その中におしゃれをするプログラムがあったというのです。つまり、チャイナ・ケイテツさんはおしゃれをすることによって、自分を取り戻し、自分を好きになっていったのです。恐ろしい体験をしたその自分を憎む心を和らげ、自分自身と和解するためにおしゃれをするように教えられたのです。僕はこの話を聞いて大変に感動しました。そして感心しました。おしゃれをしたり、ちょっと贅沢をしたりすることで自分の中の人間性を取り戻していく、そういったプログラムはなんてすばらしいことでしょう。

さて、ふたごのお母さんはどうでしょうか？毎日の戦場のような育児・家事によって自分自身を飾る暇なんてなかなかないのではないのでしょうか？ひょっとしたら、毎日髪を振り乱して必死で頑張っている自分にある日ふと気付いて、「わたし何やっているんだろう？」とか「こんなのわたしじゃない」とか、自己嫌悪に陥ったりする方もいるかもしれません。そんなときには、ぜひおしゃれを試してみてください。もちろん、毎日きっちりとお化粧をしてきれいな服を着て、ということをおっしゃっているわけではありません。多胎児の育児をしているときに、毎日そうすることは無理だと思います。でも、たまにはあくまでも出来る範囲で、そしてなによりもじゅうようなのですが、意識的に自分を飾る、おしゃれをする、そんな

時間を持ってください。そして、「素敵な自分」を取り戻してください。きっとまた元気が出てきますよ。

人間にとって、自分を飾る、おしゃれをするということは、想像する以上の大きな意味を持っています。それはアイデンティティに関わる重要な行為だからです。みなさんのお子さんたちもきっと心の中で言っていると思います。「おかあさん、おしゃれしてよ！」って。

『ツインズぷらす』第19号（多胎育児サポートネットワーク）から転載・修正